



# 春駒に会いたい！

会員 松元 明美 (69期)

## 1 初めての都井岬

私は、小さい頃から動物が大好きで、旅行先でも、動物園があれば、そちらに立ち寄りたい方である。

ある時、宮崎県串間市に野生の馬（以下「御崎馬」という）が生息していることを知った。機会があれば是非行ってみたいと思っていたところ、2020年の秋頃、法事で鹿児島県に行くことになったので、この機会に立ち寄ることになった。

御崎馬が生息している串間市の都井岬は、宮崎県の最南端にある。時間的な制限があったので空港からレンタカーで移動した。御崎馬が外に出ないように設置されている「駒止の門」というゲートにて、野生馬保護協力金を支払う。暫く車を走らせ、観光交流館の入り口付近で念願の第一御崎馬を発見した。たてがみに「ひつつきむし（オナモミ類の雑草）」をいっぱいくっつけて、草を食んでいた。この馬は、生まれて1年も経っていないようで、他の馬より体が小さかったが、人間が近づいても気にせず草を食む姿が印象的だった。ゴールデンウィーク頃に訪れると、生まれたばかりの子馬（「春駒」と呼ばれている）が見られると聞き、機会があれば訪れたいと思った。

## 2 2回目の都井岬

そんな中、都井岬に御崎馬が遊びに来るキャンプ場があることを知った。「これしかない！」と思い立ち、春駒が生まれるゴールデンウィーク頃にそのキャンプ場に行くことに決めた。

キャンプギアを持参するため、飛行機ではなく自家用車で移動した。

東京都から宮崎県の最南端までの移動距離は、約1200キロメートルもあり、高速道路を利用してノンストップで運転しても約17時間はかかるが、私は、「春駒に会いたい！」一心で、躊躇なく自家用車で移動した。

キャンプ場にて、朝6時30分頃、テントから外を覗

いてみるが、御崎馬の姿はない。車で春駒を探しに行くと、小高い丘の上に昨日生まれたばかりの春駒とその母馬らを発見した。春駒は、母馬の近くで寝ていた。昨日生まれたばかりの春駒と母馬が、ここまで移動して来たのだと思うと、馬のたくましさ、自然の厳しさを感じた。



キャンプ場に戻ってみると、なんと、別の春駒と母馬が遊びにきていた。母馬は、人間が春駒に近づかないように警戒していたので、距離をとって見守った。春駒は、脚をハの字にしながらよちよち歩き、母馬は春駒を気かけ、寄り添うように歩いていた。童謡の歌詞そのものであった。その姿にまたも感動した。

その後も、御崎馬を観察して歩いた。何時間見ても飽きなかった。結局、キャンプ場をチェックアウトした後も名残惜しくて、暫く御崎馬を観察して回った。

可愛いだけではない、自然界で生き抜く彼らの姿は感慨深かった。

可愛いだけではない、自然界で生き抜く彼らの姿は感慨深かった。

## 3 3回目の都井岬

実は、今年（2024年）のゴールデンウィークも、都井岬を訪れた。今回は、滞在時間が少なく、なかなか春駒に出会うことができなかったが、小高い丘の斜面で、観光客に囲まれながら、すやすや眠る春駒に出会うことができた。相変わらず、可愛くて時間を忘れて見守った。

次に都井岬を訪れる機会に恵まれたら、別の季節に訪れてみたいが、どうやら青森県にも野生馬がいるらしいので、今度はそちらにも行ってみたいと思う。